林業相談　カラマツ幼齢木の立ち枯れについて

問　4年前に植栽したカラマツ造林地に，この1～2年前から枯れる木が増えてきました。被害があるのは平坦地で，以前，採草地にしていたところです。私の山では，ここだけが，1か所3～4本ずつ枯れてきます。今後，ますます立ち枯れが増え，他の造林地にも被害が拡がらないか心配です。なお，ネズミのだんごまきは毎年行っており，ネズミによる被害ではありません。　（士幌町　酪農業K生）

答　カラマツ幼齢林の枯損の原因として，まず最初に考えられるのは，野ネズミによる被害とナラタケ病です。Kさんの山では，ネズミの被害を受けていないのですから，まず，ナラタケ病でないかと疑ってみなければなりません。そこで，質問内容を整理してみますと，①植栽後2～3年して，②何本かまとまって枯れるとあり，さらに，現地は，③平坦地で，以前採草地にしていたところだとあります。現地が過湿ぎみなのかどうかは不明ですが，もしそうなら，これらの内容は，すべて，ナラタケ病の疑いを一層強めるものです。

Kさんが，現地で，最初に異状を感じられたのは，おそらく，開葉直後の5～6月ごろだと思います。7月になると，枯れたことが，はっきりわかるはずです。ナラタケ病であるかどうかを調べるために，そのころ，枯損木の地ぎわの樹皮をはいでみて下さい。樹皮の下に，薄く，白い膜状のものがこびりついていませんか。そして，枯れ木を引きぬいて，根のまわりを調べて下さい。根はもちろん腐り，その内部に，先ほどの白い膜状のものが見られないでしょうか。また，注意して見ると，根の周囲に，黒い針金のようなものがまきついていませんか。このような，白い膜状物や黒い針金状のものが見られたら，ナラタケ病の被害であることに，まずまちがいはありません。

Kさんの山の被害は，文面から，ナラタケ病の疑いが濃厚ですので，ここで，ナラタケ病について説明しておきます。この病気は，ボリボリと呼んでいるキノコによっておこるものですが，山で被害が拡大するのは，黒い針金状のものが隣りの木の根にまきつき，そして，またその隣りの木へと進むからです。このようにして，団状の立ち枯れが生じますが，これらの被害は，ニホンカラマツでは，植栽後3～5年間が最盛期です。この期間がすぎますと，小康状態が続き，10年生以降では，まず，枯れることはありません。したがって，Kさんの山では，まだ若干立ち枯れがでるものと思いますが，ここ数年すぎれば，一安心です。そこで，この数年間，春に異状に気付いた時点で，その木を根からきれいにぬきとり，林外へ運びだし，焼却することをおすすめします。今のところ，薬剤によって被害をくいとめる方法がありませんので，被害木（とくに根）をていねいに除去するしか道はありません。なお，植栽後5年ぐらいの間に，このような立ち枯れのでていないところは，今後，ナラタケ病による被害はまずないと思います。また，今後造林される際は，融雪水のたまりやすい場所や，過湿地をさけることが賢明です。　（樹病科　村田義一）